

答 当事業については、これまで5年の節目ごとに記念式典をはじめ、さまざまな事業を行ってきた。90周年という大きな節目の年に当たり、先人が残した足跡をしのぶとともに、市勢のさらなる発展をめざし、多くの市民が参加でき、90周年を広く祝うことのできる記念事業を行いたいと考えている。

市庁舎の禁煙 (緑風会)

問 長年、喫煙は個人の嗜好の問題であり、制限することは人権侵害との声もあった。しかし、喫煙が単なる薬物依存症であることが立証され、多岐にわたる禁煙指導により、多くの市民が健康を取り戻している。学校・公民館・市民病院などの公共施設で無煙化が進んでおり、職員の健康増進と業務効率の改善のためにも、市役所本庁における今後の禁煙に対する取り組みを示してほしい。

答 庁舎内禁煙については、受動喫煙防止の観点から喫煙場所の指定、分煙機の設定などにより対応してきたところであり、引き続き受動喫煙防止対策に努めていく。

芦田川環境マネジメントセンター (緑風会)

問 奈良県から大阪府にかけて流れる日本一水質汚濁が進んだ川「大和川」で、流域住民215万人により、フライパンや食器の油を拭き取ってから洗うなどして生活排水を極力流さないという試みが行われ、BOD(生物化学的酸素要求量)の数値7%改善という成果を上げている。

芦田川でも、環境マネジメントセンターが中心となり、流域住民が一体となって大和川と同様の試みを行い、今後の水質改善につな



芦田川水辺公園「ちゃぷちゃぷらんど」

げてはどうか。

答 環境団体や事業者、行政との協働による芦田川環境マネジメントセンターが昨年発足し、幅広い情報交換や啓発活動を実践することとしており、本市も水質浄化に対する流域住民の関心を高めるよう積極的にかかわっていく。

大気汚染防止

(日本共産党)

問 市内の住民から、「窓を開けると床がざらつく」、「風が強い日は洗濯物や家の壁、窓のサッシが黒くなる」との声が寄せられている。ばいじん、粉じん、浮遊粒子状物質などは、呼吸器系疾患やぜんそく、肺ガンを発生させる危険性があり、人体に重大な影響を及ぼす。ばいじん被害をなくするには、発生源を明確にし、排出を断つことが根本的な対策だが、主要な発生源の把握、被害を減らす対策は。

また、大気汚染対策の抜本的強化のため、測定点と測定機器を増やし、『福山の環境』に、ばいじんの分析結果を掲載してはどうか。
答 一定規模以上のばい煙発生施設などを設置している工場など



大気環境測定機器(南小学校内)

に、計画的に立ち入りを実施し、規制基準の遵守を指導している。なお、測定地点などの増設は困難である。測定結果の詳細なデータの公表は、可能な限り対応していく。

公益通報制度

(新政クラブ)

問 昨年6月、公益通報者保護法が制定され、公務員を含めた内部告発者保護が制度化された。条例制定について、本市の取り組み状況は。

答 内部通報した職員が不利益や圧力を受けず、また、その調査に公正さを担保する制度は、行政運営の適正化および公益の確保の